

上信会越 清津川 サゴイ沢

岩田

【日時】2009年8月15～16日

【メンバー】L岩田、煤孫、坂井、浅井

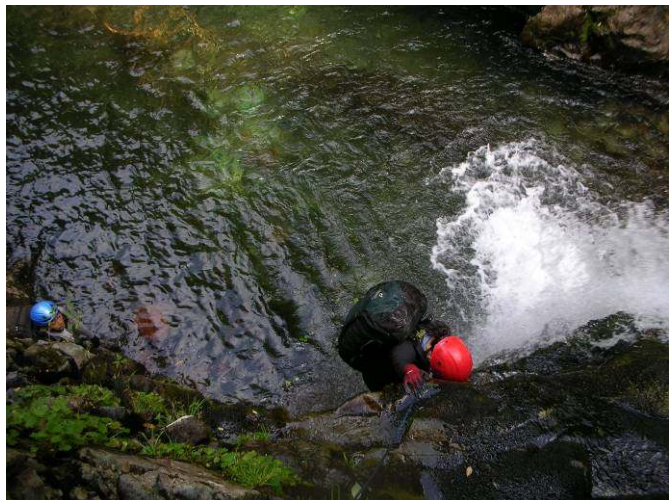
前夜は平標の登山口で仮眠したがお盆だというのに苗場はやけに涼しい。すでに秋の気配という感じだ。そういえば今年は猛暑という言葉あまり聞かない。まあ、過ごしやすくいいのではあるが、ちと物足りない気もする・・・。

車で赤湯林道を進みゲート前で身支度を整える。数年前の会山行でもこの流域の沢に入ったが入渓までのアプローチがやはりきつい。2時間弱のアプローチであるがアップダウンが多く睡眠不足の体にはこたえる。赤湯に着くとようやく沢らしくなった。温泉には魅かれるものがあるがここは我慢して先に進む。サゴイ沢は赤湯から尾根をひとつ越えていくがこれもまた思った以上に長い。ようやく入渓点に到着するとホッとする。

最初の滝の五重の滝は左岸から巻いて熊ノ沢出合に出る。しかし、巻き道が思ったより悪いので注意が必要だ。続く8m滝も悪い。右岸から巻いたのだが途中で垂直な箇所があってなかなか難しい。ここは岩田が空身で登り、上からザックを引き上げお助けを出して通過する。この先も巻きと直登を繰り返すがさつきよりは幾分楽である。足元を見れば魚影は濃く、岩魚が次々に横切っていく。時間があればのんびり釣りをしながら遡行したいところだが、時間がかかる沢であるのでここは我慢する。

この沢の滝は大きな釜を持ったものが多い。暑かったら泳いで取り付くこともできそうだが真夏にしてはやけに涼しいのでそんな気は全く起きない。なので釜をへつって滝を登る。メジャーな沢なので巻きはしっかり付いているかと思ったが入渓する人は少ないのかあまり明瞭ではない。だから自分たちで探さなければならぬがそれもまた沢登りの楽しみだろう。人臭さがない沢というのはいいものだ。

いよいよ核心の連瀑帯に入っていく。途中、大きな釜を持った5m滝では巻き道に悩ん



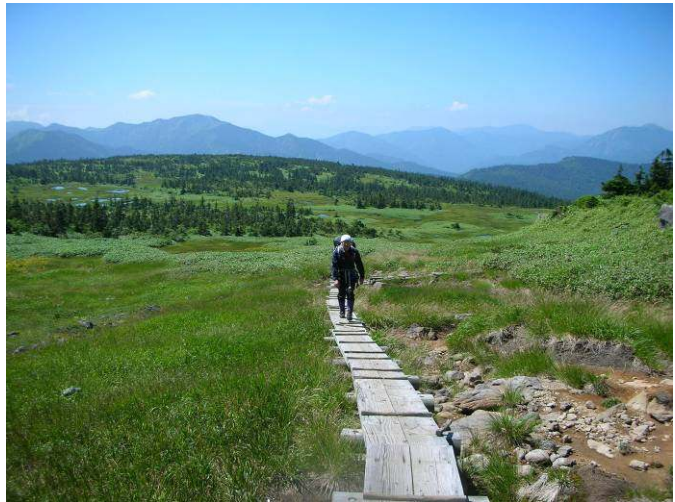


だ。右も左もかなり難しそうだ。一人悩んでいたら浅井さんが右から釜をへっつって行けば滝が登れそうだとのこと。早速行ってみると簡単に登れた。お助けを出して全員難なく通過。巻くことばかり考えてはいけけないのだ。最後の8m滝は右岸の脆い尾根を巻くが浮石が多いので通過は慎重に。ここを越えると穏やかになり間もなく二俣に到着する。ここに来てまだ魚影がある。本当に自然豊かな沢なのだ。

二俣の手前に平坦な場所があったのでそこを整地してツエルトを張る。宴会場所は少し離れてしまうがいい場所があった。焚き火に火がつくのに時間がかかったが時間が経つにつれて盛大に燃えた。ここに岩魚があったらなー。

翌朝。高度は1600mはあるので思ったよりも冷え込んだ。寒くて寝られないという人もいた。朝食のラーメンを食べて早速出発する。

左俣を進むが小滝を2、3超えると間もなく水は涸れてしまった。ここから先はヤブっぽくなり、そして本格的なヤブとなる。苗場山に寄って行きたいのでできるだけ右の支沢を選んで進んでいく。ヤブはますます濃くなるが稜線も次第に見えてくる。明るいところに出たらすぐに登山道に出た。小さな池塘が出迎えてくれて心が和む。早く下山するならば赤倉山経由で下山するのがいいが、やはり湿原は見て行きたいので苗場山経由で下山する。ヤブで疲れていたので湿原、池塘の風景が実に和む。思っていた以上の光景に感心してしまう。よしよし！ 苗場からは急な登山道が続くが一気に赤湯まで下る。そしてまたあの登山道を登り返してゲートまで戻った。



サゴイ沢はやはりアプローチが大変ではあるがその分、入渓者は少ないようで人臭さがなくてなかなか楽しめる沢である。下山は是非とも苗場山経由で行きたいところだ。

また、グレードはガイドなどを見ると2級と出ているが、時間がかかることと巻きが悪いことを考えるともう少しあってもいいと思うがいかがだろうか？

【グレード】 3級下

【行程】 8/15 ゲート (6:35) ~ 赤湯 (8:30) ~ 二俣 (16:10)

8/16 二俣 (6:20) ~ 登山道 (8:40)

【地図】 佐武流山、苗場山、三国峠